

## 第6回郷土の歴史探訪：九十九の谷・馬込から山王へ

十年ほど前のこと、大田区の水道メーターの検針員のバイトをしていました。大田区内の広範囲を自転車で走り回っている時に、「馬込文士村」の看板をあちこちで見かけました。郷土博物館や\*\*記念館の前を何度も行き来していたのですが、中まで入る機会は残念ながらありませんでした。

生まれ育った大森について、まだまだ知らないことが多いのだと、実感しています。文士達が本格的に馬込に集まりだしたのが、大正十二年の大震災が要因のひとつとも言われています。子どもの頃にテレビドラマで観た光景が、目に焼き付いていますが、文士や画家達は実体験を作品に反映させたのかと。明治・大正・昭和の激動の時代のその流れに抗いながら、その生き方を示し、私たちが学べるようにしてくれています。なかには、ある意味、反面教師と呼ぶべき例もあるかもしれませんが。今日の私たちも、情報が洪水のように押し寄せてくるなかで、それらの真贋を見極めて、自らの生き方を導くため、価値基準をしっかり見定める必要があります。それは、嵐に流されないため船のいかりの役割を果たしてくれるはずです。

今回の 第6回郷土の歴史探訪（馬込文士村）の計画・準備に多大な労力を払って頂いた方々に心より感謝申し上げます。 磯邊富雄 月日会25期

（右のレリーフには、こう書かれています。）

**馬込文士村時代 それは  
女性活躍の時代でもあった。**

